















## 平成27年度現地検討会実施状況（木材の安定供給）

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
バイオマス	木質バイオマス資源現地検討会	5月26日	上川南部森林管理署	南富良野町（国有林）	国有林	20名	木質バイオマス資源の安定供給のため、団地化による量の確保と搬出コストの低減によって、今まで切り捨て間伐しかできなかった林分も売り払い可能になるかについて現地検討を実施	供給者側と需要者側が、国有林材の安定供給システム販売（立木販売）予定地で、木質バイオマス資源として利用可能な林分のイメージを共有し、課題・問題点の把握を行った。 意見交換では需要者側より「列状間伐の伐採幅4mでは作業効率が低いため5～6mの伐採幅がほしい」との意見があり、今後は伐採幅の整理と検討も考えていくこととなった。	
					民有林	4名			
					事業者	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	24名			
解説を受ける参加者									
バイオマス	木質バイオマス立木販売団地化現地検討会	6月23日	日高北部森林管理署	日高町(国有林)	国有林	6名	木質バイオマス資源の安定供給のため、育成天然林資源が木質バイオマス資源供給対象林分として立木販売団地になり得るか現地確認を行い、個々の林分を検証	木質バイオマス資源の利用拡大に伴う供給対象林分として育成天然林資源が立木販売団地になり得るかについて、現地確認を行い、署内職員と日高地区の森林事務所の職員間で意見交換を実施した。 意見交換では、巣植箇所等の林分を検証し、「巣植箇所では、供給可能であるが、中大径木の扱いについては更に検討が必要」「亜高山帯における育成天然林についても施業技術を研究すべき」などの活発な意見があり、巣植箇所については、有効利用可能林分として計画変更の資料とするとともに、次期計画地域における選択肢の一つとして普及することとした。 また、亜高山帯の育成天然林資源については、今後更に研究を深めることとした。 なお、亜高山帯に近い人工林についても「育成天然林の施業方法に準じて取り扱う必要がある」との意見がだされたが、その扱いについては今後検討することとした。	
					民有林	名			
					事業者	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	6名			
育成天然林の施業の説明									
林況調査	収穫調査研修会	6月29日	十勝西部森林管理署	更別村(国有林)	国有林	23名	国有林職員の技術の向上を図るため、収穫調査技術について学習し、指定調査機関等への指導普及に活用	収穫調査規程のうちの、伐区標示方法・利用目的ごとの標準地調査方法・伐採区域測量方法等々の実技演習を行った。 意見交換の中で、伐区標示の変更点などを確実に指定調査機関への指導すること、また、収穫調査の簡素化を考えていくこととなった。	
					民有林	名			
					事業者	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	23名			
標準地調査箇所における計測									
バイオマス	木質バイオマス資源調査現地検討会	7月14日	根釧東部森林管理署	中標津町（国有林）	国有林	42名	木質バイオマス資源の安定供給のため、資源供給対象林分が国有林材の安定供給システム販売（立木販売）の団地になり得るか等についての現地検討を実施	トドマツやアカエゾマツの単層林の初回間伐等が想定される林分で、木質バイオマス資源の安定供給に向け、団地化・大ロット化による効率性や採算性について現地検討を行い、これまで販売が期待できなかった初回間伐等の未利用資源の活用に向けた供給者側と需要者側との共通認識の確立を図った。	
					民有林	16名			
					事業者	7名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	65名			
実際に林内を踏査し検討									

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
バイオマス	森林整備技術現地検討会(木質バイオマス利用関係)	7月28日	上川総合振興局南部森林室 上川南部森林管理署	南富良野町(国有林)	国有林	4名	木質バイオマス資源の安定供給のため、未木枝条等林地未利用材の集荷に対応した高性能林業機械について現地検討を実施	搬出間伐実施林分での木質バイオマス対応型フォワーダを使用した枝条等の集荷作業現地を調査し意見交換を行った。 今後は調査した功程を分析し、ボイラー用チップの生産価格まで調査して採算性についても検証していくこととなった。	
					民有林	12名			
					事業体	9名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	25名			
講師による解説									
木材利用	南幌町木造公共施設構造見学会	10月26日	主催：南幌町、北海道空知総合振興局森林室 協力：空知森林管理署	南幌町(施設・道有林・国有林)	国有林	3名	地域の木材利用を推進するため、南幌町等が取り組んでいる地産地消の取組等について現地検討を実施	各見学箇所において、それぞれの取り組み状況を説明し意見交換を実施した。 南幌町では、「地材地消」の取り組みとして建築している地域材を利用した町民プールや、その他関連施設等の見学を実施し、地域の木材利用推進状況を確認した。 国有林では、防風林内の利活用として設定されている「南幌町フットパス」で、防風林の概要及び利活用状況の説明を行い、実際に現地調査等を行うことで木材の有効活用等実感できる有意義な機会となった。	
					民有林	15名			
					事業体	2名			
					研究機関	名			
					その他	9名			
					合計	29名			
防風林概要等説明									
バイオマス	木質バイオマス原料に係る勉強会	11月12日～13日	上川北部森林管理署 上川中部森林管理署 上川南部森林管理署 空知森林管理署北空知支署	下川町(施設) 南富良野町(国有林)	国有林	7名	上川地域の課題としている「木質バイオマス安定供給に向けた取り組み」を解決するため、継続的に地域の実態の把握を行い、地域事情を踏まえた課題解決について検討を実施	下川町有林で現在実施している木質バイオマス原料の集荷方法について、南富良野町で木質バイオマスボイラーの原料乾燥施設の稼働状況、国有林で木質バイオマス原料を想定して団地化した間伐箇所を見学し意見交換を実施した。 今後も連携した取り組みによる情報の収集と共有は重要であることから、引き続き情報交換等により各人の知見を高めることが必要だと考えている。	
					民有林	7名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	14名			
ボイラー施設についての説明									
バイオマス	南富良野町の森林・林業に関する情報交換会	11月26日	南富良野町 上川南部森林管理署	南富良野町(国有林)	国有林	1名	木質バイオマス資源の安定供給のため、国有林材の安定供給システムによる販売(立木販売)の予定地を調査し、意見交換を実施	南富良野町の林業関係者を対象として、木質バイオマス資材を視野に入れた立版システム予定地である国有林を調査した。 意見交換では「民有林への普及が進んでいない列状間伐を普及させ、効率化を図るためにも、施業面積の団地化(まとまり)は必要である」など、木質バイオマスの安定供給に向け活発な意見交換が行われた。	
					民有林	16名			
					事業体	7名			
					研究機関	名			
					その他	1名			
					合計	25名			
現地での意見交換									
木材利用	民有林実務見学会	12月16日	留萌北部森林管理署 留萌南部森林管理署	小平町(民有林)	国有林	16名	効率的な森林整備を推進するため、民有林の間伐実行箇所を見学し、民有林の森林整備の現状と行政実務について意見交換を実施	民有林における間伐の調査方法や補助事業(森林整備加速化事業)の内容、木質バイオマス資源として利用する際の具体的な用途等について、活発な質問及び意見交換を行った。	
					民有林	6名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	22名			
民有林土場での造材作業									



分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
バイオマス	システム販売による簡易収穫調査の現地打ち合せ	12月21日～22日	北海道森林管理局 資源活用第一課 十勝西部森林管理署	大樹町（国有林）	国有林	10名	収穫調査量が年々増加していることから、調査コスト及び労働負荷の軽減に資するため、収穫調査等の簡素化について現地検討を実施	収穫調査、支障木調査、跡地検査の手法について現地検討会を行った。 木質バイオマス原料を想定した林分の状況を踏まえ、現収穫調査規程等と照らし合わせながら意見交換し、簡素化について検討した。	
					民有林	名			
					事業者	5名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	15名			
輸出・移出	韓国向けトドマツ選別基準勉強会	2月3日	留萌振興局 留萌南部森林管理署 管内森林組合	小平町（民有林）	国有林	4名	留萌産トドマツ材の需要拡大を図るため、韓国へ輸出されるトドマツについて需要先が求める基準について意見交換を実施	韓国向けトドマツの集荷事業者から、韓国の工場の受け入れ基準の説明があり、その後実際に土場に並んだトドマツ材について、節・腐れ・アテ・ヌレ等欠点の大きさ等を確認した。 意見交換では、「節の許容範囲はどれくらいか」、「アテやヌレの扱いはどうなっているのか」などの質問があり、活発な意見交換が行われた。	
					民有林	10名			
					事業者	4名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	18名			
バイオマス	システム販売による簡易収穫調査の現地打ち合せ	3月1日	後志森林管理署 北海道森林管理局 資源活用第一課	室蘭市（国有林）	国有林	8名	収穫調査量が年々増加していることから、調査コスト及び労働負荷の軽減に資するため、収穫調査等の簡素化について現地検討を実施	国有林材の安定供給システム販売（立木販売）箇所において、実際の事業実施者とともに収穫調査等の手法について現地検討会を行った。 労働負荷や適正な事業実施への課題、あるいは簡素化のメリットなどについて事業者側の意見や署側の考えのすり合わせを行った。	
					民有林	名			
					事業者	3名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	11名			
林況調査	第2回 国有林・道有林技術交流会	3月16日～17日	上川北部森林管理署 上川総合振興局北部森林室	美深町（道有林）	国有林	8名	技術開発のため、森林室や研究機関と連携してGNSSによる単独測量、UAVにより空撮しオルソ化した画像からの面積測量、トゥルーパルスによるコンパス測量の3種類の測量方法を実施して、それぞれの精度について意見交換を実施	面積測量として実施したGNSS、UAV、トゥルーパルスによるコンパス測量の3種類の測量については、それぞれ精度的に大きな差はなかったが、今回実施した現地の地形は緩傾斜地であったため、急傾斜地、起伏が大きい複雑な地形においても検証が必要であると認識した。 特にUAVでの測量についてはオルソ化処理にあたって使用するソフト等に大きく影響されることから併せて検証が必要であると考えている。	
					民有林	10名			
					事業者	名			
					研究機関	1名			
					その他	名			
					合計	19名			
林況調査	平成27年度 遠軽・湧別地区 民合同有用広葉樹勉強会資料	3月25日	網走西部森林管理署 オホーツク総合振興局西部森林室	遠軽町（公園）	国有林	8名	国有林と遠軽町、湧別町、森林組合、事業者を対象として、担当者及び若手職員の育成のため、有用広葉樹を判別するための研修の実施 合同で開催することによる民有林との連携強化	前段に現地検討会の流れと有用広葉樹と多様性、幼木を対象に冬芽の生え方、色、形状等にポイントをおいて説明を行った。 その後2班に分かれ、講師があらかじめ選んでおいた木を、それぞれ図鑑や班内で議論、共有し同定する実習を行い、最後に一人ずつ判定のポイントと感想を発表してもらった。	
					民有林	10名			
					事業者	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	18名			